



共済と保険

一九八三年七月号 目次

巻頭言・警戒を要する「共済契約者保護論」

(八)

交差点

成熟化社会と協同組合の自己矛盾……吉川章嘉

(一〇)

パッケージ・ポリシーの発売……渡辺大三

(一一)

〔座談会〕

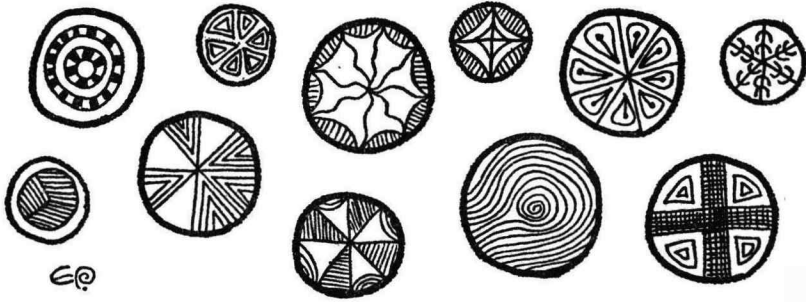
新事態を迎えての協同組合間協同

をめぐって

(一五)

根立昭治(司会)、山本一郎、佐藤碩男
 松田 侑治、坂井 幸二郎

わが国社会保障財政の現状と年金問題……鈴木諒一……(五四)



〔リポート〕

協同組合学会春季集会

— 協同組合間協同について —

（三六）

〔上鳥羽だより（18）〕

共済と老人保健法

五木田和次郎

（三七）

論調・ルール破りの米価決定劇

節度を欠く銀行のサラ金融資

（三八）

時言月評・四利源／小さな親切

本・保険の現代的課題・新マネーウオーズ

（六一）

グラフ・五七年度損保元受四兆円

（六七）

ことば・県民共済の拡散動向

（七）

展 望		
生保界	サラ金融資は正で大蔵省通達／簡保が九月に10倍型特養発	（七六）
損保界	売／生保、簡保の10倍型に反対	（七六）
	新種分野で各社分割払制度／七月から自動車保険料率・制度改定／大東京火災、事故処理にDIQS開設／57年度決算は上場13社で減益、損保従業員数七万七千人	（七六）

編集後記

（八二）

☆表紙デザイン・八木聖子 ☆目次・交差点カット・全共連 印南博之